

えひめの歴史文化モノ語り

県歴博収蔵資料から ⑤1

2年ほど前、昭和初期の3体でできた。

ひな人形を調査するため、ちよんまげ頭に袴（はか）
 具内（ぐち）の個人宅にお伺いしたま。姿の男性と、頭巾をか
 時のこと。箱から人形や道ぶりが鉄砲を持つ狛師（うし）狐（き）
 具を一つずつ取り出して確（つね）のお面をつけた女の
 認（ま）している、高さ4・8子。3体一組に違いないが、
 珍（めづ）前後の小さな磁器人形がなぜこの組み合わせなの

じゃんけんの「元祖」か

か、持ち主の方に尋ねてみ
 た。
 すると、「じゃんしゃん
 しゃん、おしゃしゃのしゃ
 ん」という遊びのことだと
 いう。そう言われても何の
 ことかさっぱり分からない
 私に、人形を手に遊び方を
 楽しげに話してくださっ
 た。ちなみに、ちよんまげ
 頭で膝に手を置く人形は、
 庄屋さんだという。
 遊び方はいたってシンプ

に弱い。つまり3人にはお
 互いに得意な相手と苦手な
 相手が1人ずついる、三す
 くみのじゃんけんと同じ関
 係性で勝ち負けを決めてい
 るのだ。
 博物館に戻って調べてみ
 ると、江戸時代にお座敷
 遊びとして流行した狐拳
 （または庄屋拳や藤八拳）
 という拳遊びに当たるこ
 とが分かった。じゃんけん
 の元祖といったところだろ
 うか。

この人形と聞き取りのお
 かげで、昭和初め頃まで県
 内でも子どもたちが狐拳で
 遊んでいたことが確認でき
 た。しかし、今ではじゃん
 けんを取って代わられてし
 まい、狐拳は忘れられた遊
 びになっている。

人形たちを見ていると、
 「じゃんしゃんしゃん、お
 しゃしゃのしゃん」という
 子どもたちのかわいらしい
 掛け声が今にも聞こえてき
 そうだ。

（専門学委員・宇都宮美紀）

〈月2回掲載します〉

狐拳人形（庄屋・狛師・狐）



狐拳を表現した磁器人形。左から庄屋、狛師、
 狐の面をつけた女の子—制作年代は昭和初期
 ころ、県歴史文化博物館蔵

庄屋は化かされてしまっ
 たため狐に弱く、狛師は鉄砲
 で撃つため狐に強いが庄屋
 に頭が上がらないので庄屋